今、ニッポンには この夢の力が必要だ。
2020年 オリンピック・パラリンピックを日本で！

新春特別インタビュー

オリンピック選手が語る――スポーツでつながる心、広がる夢

ロンドン・オリンピック女子トライアスロン日本代表
井出樹里（いでじゅり）選手×足立真梨子（あだちまりこ）選手

昨年５月に国際オリンピック委員会において、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会立候補都市の一つとして東京が選定され、その中から、今年９月に開催都市が決定します。

そのオリンピック競技の一つで、水泳（スイム）、自転車（バイク）、ランニング（ラン）の3種目を連続して行うトライアスロン。西東京市向台町にある「チームケンズ」は、トライアスロンのトップ選手を抱える名門チームです。そのチームケンズからロンドン・オリンピックに出場、西東京市を拠点に世界で活躍する、井出樹里選手と足立真梨子選手にお話を伺いました。

2012年11月に開催された第18回日本トライアスロン選手権東京港大会での井出選手のラン

写真提供：播本明彦氏

――まずはトライアスロンを始めたきっかけを教えてください。お二人ともロンドン・オリンピックの日本代表監督を務めた飯島健二郎監督にスカウトされたそうですが。

井出　高校3年の夏まで競泳を続けていたのですが、中学3年でベストを出してからは記録が伸びなかったんですね。それで大学に入って陸上に転向したのですが、故障がちで全然走れなくて。たまたま故障中のメニューとしてプールで泳いでいた時、私の泳ぐ姿を見た飯島監督から、「一緒にオリンピックでメダルを目指さないか」と誘われたのがきっかけです。

足立　私は水泳をやっていた高校時代、飯島監督に声をかけてもらったのがきっかけです。でも私は当時、ママチャリにも乗れなくて（笑）。その時はお断りしたのですが、その後、大学で水泳を続けていた時、何か自分の中でモヤモヤしたものを抱えていたんですね。そんな時、母が「やりたければやってみれば」と言ってくれて決心がつきました。それで高校時代にもらった飯島監督の名刺に直接お電話して、「もう何年もたってしまったのですが、トライアスロンをやりたいんです」と伝えたのがきっかけでした。

――トライアスロンという未知の世界に飛び込む不安はありませんでしたか。

井出　6歳で水泳を始めて8歳で育成コースに入って以来、「オリンピックで１番になる」というのが夢だったんです。だから未知の競技に足を踏み入れる不安よりも、8歳から思い続けてきた夢がかなうかもしれないワクワク感のほうが大きかったです。私はもともとすごくドンくさくて（笑）、人が1回でできることを、5回やっても10回やっても15回やってもできないから、じゃあ20回やろうというタイプなんですね。何に対しても、そうやって繰り返し繰り返し練習してきた私を、いつも、母は褒めてくれました。逆立ちができただけでもこんなに喜んでくれる母が、もし私が世界で１番になったらどんなに喜んでくれるだろうか。それもトライアスロンを続ける理由の一つです。

西東京市のここが好き！

合宿や遠征などから戻ってきたとき、まち全体がホッとできる雰囲気に包まれているところが好きです。皆さんが温かいこと、このまちにいることで、また元気が出てきます。

井出樹里さん
トーシンパートナーズ・チームケンズ所属。1983年6月9日生まれ。トライアスロンを始めて2年半で北京オリンピックに出場、この種目で日本人初の5位入賞を果たす。ロンドン・オリンピック34位。2012年日本トライアスロン選手権3位。

足立真梨子さん
トーシンパートナーズ・チームケンズ所属。1983年7月21日生まれ。大学2年のとき競泳から転向し、トライアスロンを始める。2010年アジア競技大会（広州）で日本人初となる金メダルを獲得。2012年ロンドン・オリンピック14位。

足立　私は自転車もまともに乗れない私が…と不安はありましたが、監督に連れられてレースを見に行くようになってから、次第にトライアスロンの魅力に引きこまれていきました。日本選手権をお台場で見た時は、水泳から自転車に移るトランジットエリアで選手の気迫を目の当たりにしました。選手が必死の形相で走りながら、ウエットスーツを脱ぐ姿を見て、思わず涙があふれてきたんです。スポーツを見てこんなに気持ちが高ぶったことは初めてでした。

――昨年はお二人ともロンドン・オリンピックに出場されました。いかがでしたか。

井出　足立選手はロンドンに行くまでの4年間、本気で自分と闘って「トライアスリートとしての足立真梨子」を作りあげていました。私は北京オリンピック後に故障をしてしまい、ボロボロの時期が続いていたのですが、その間、足立選手はアジア競技大会で優勝し、力をつけていきました。選手は強くなると、天狗になってしまうことがあるんですが、足立選手は自分の在り方がまったくぶれなかった。そういう彼女だからこそ、大きな故障を乗り越えてきたんだなと、人としての強さ、器の大きさを学ばせてもらいました。私は今回のロンドン・オリンピックでは「1番、1番」と言い続けながら、思うような結果が出せず、帰国後しばらく進む道を見失っていた時期があったんですね。でも足立選手はオリンピック直後にもかかわらず、横浜の世界選手権に出場すると宣言していて、そうやって世界のトップと戦い続ける彼女を見ていたら、私も「このままでは終わりたくない、またマリと一緒に走ってみたい」と思ったんです。足立選手の存在がなかったら、私はいま競技を続けていなかったと思います。

足立　今回初めてオリンピックに出場し、自分の肌がピリピリする感覚を味わいました。オリンピックはそれまでの苦しい思い出を全部忘れさせてくれる特別な舞台。私は北京オリンピックでは直前に右足を疲労骨折してしまい、出場はおろか歩くこともできなかったんですね。毎日リハビリをして自分を納得させる日々でした。そんな中、私と同じ時期にトライアスロンを始め、練習をともにしてきた井出選手が北京で５位に入賞し、正直、複雑な思いがありました。最初は井出選手をうらやみましたが、彼女が結果を出せたのは、ひたすら練習に打ち込んだから。結局、自分が変わらなければ何も変わらないのだということに気づいた時、私の中でパチッとスイッチが入りました。そんなふうに私を変えてくれた井出選手と一緒にロンドンでスタートラインに立てたことは、本当に幸せでした。

――オリンピックの経験者として、2020年の東京オリンピックが実現したらどうなると思いますか。

井出　オリンピックでは声援が地響きのように伝わってくるのですが、そんな大声援の中、選手は自分の名を呼ぶ声が聞こえるんです。オリンピックとは、4年に1度の舞台に向かって世界中のアスリートとそれを支えるスタッフ、家族の思いが集結する場です。その空間、その場を日本で共有できるのは素晴らしいし、東京オリンピックが子どもたちに夢を持ってもらうきっかけになればいいと思います。

足立　日本でオリンピックが開催されたら、素晴らしいと思います。自国での開催は選手にとって特別なものですし、大きな誇りになると思います。私がロンドン・オリンピック直後にもかかわらず、横浜の大会に出たいと思ったのは、世界選手権シリーズで唯一、自国で開催される大会だからです。自分の国で、皆さんが一生懸命な思いで作り上げているのがわかるから、その分、選手の思いも強くなるのだと思います。

――それでは最後に西東京市の子どもたち、市民の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

井出　西東京市の方々にはいつも温かい言葉をかけていただき、私たちのエネルギー源になっています。海外遠征や合宿の多い私たちにとって、ほっとできるやすらぎの場所であり、ここに拠点を置いてトライアスロンができることが、すごくありがたく幸せです。そんな心温かい市民の皆さんに伝えたいのは、思い続けることの強さはどんな才能よりも実を結ぶ可能性が大きいということです。いくつになってもかなえたい夢があるのなら、自分を強くもって夢に向かって突き進んでほしいと思います。

足立　力を入れ過ぎず人と比べずに、自分自身をまっすぐに見つめて、夢に向かって進んでほしいと思います。何でもいいから自分の好きなこと、夢中になっていることに真剣に向き合っていれば、きっと自分の知らない自分に出会えると思います。

西東京市のここが好き！

緑が多いので小さな子どもからお年寄りまでが気持ち良く暮らせる場所だと思います。世代を超えてお互いのことを思い合う温かい人が集まる地域だからこそ、私たちもトライアスロンというスポーツができるのだと思います。

2012年9月に開催された世界トライアスロンシリーズ横浜大会での足立選手のバイク

写真提供：播本明彦氏

東京オリンピックをめざして！

TOKYO 2020 CANDIDATE CITY

2020年 オリンピック・パラリンピックを日本で！

2020年に東京オリンピックが開催されれば、あと7年。

西東京市内でもオリンピック競技に全力で取り組んでいる子どもたちがたくさんいます。ここではオリンピックで注目された競技で活躍している3人を紹介します。

市内からメダリストが誕生することを期待して、若きアスリートの活躍を応援していきましょう！

日本代表に選ばれることが目標

5歳のときに市内の幼稚園のサッカースクールに入ってサッカーを始めました。それぞれ個性の違う選手が一つの目標に向かって頑張れるところがサッカーの魅力です。常に全力で練習に取り組み、自分とチームがレベルアップできるよう心がけています。目標にしているのは長友佑都選手。人の見ていないところでも努力しているところがすごいと思います。以前お会いする機会があり、「いつか一緒にプレーしよう」と声を掛けていただきました。今年の目標は同世代のカテゴリーの日本代表に選ばれること。東京でオリンピックが開催されたら出場したいです。

練習風景

2012年 U-15日本代表候補
FC東京U-15むさし所属
相原 克哉さん

将来の夢はオリンピックでメダルを取ること

お兄ちゃんがバドミントンをしていたので、私も1年生のときに始めました。バドミントンは相手とシャトルを打ち合うところが楽しく、監督から言われたアドバイスを意識して毎日練習しています。昨年は全国優勝を狙っていましたが負けてしまい、すごく悔しかったです。今年は中学生になるので、小学生の頃よりいい成績を残すのが目標です。私は練習でよく総合体育館に行きますが、西東京市は体育館がいっぱいあるところが好きです。私の夢はオリンピックに出場してメダルを取ることなので、東京オリンピックが開催されたら選手として出場したいです。

若葉カップ全国小学生大会にて

第28回若葉カップ全国小学生大会 第５位 バドミントン
向台小学校６年
佐藤 杏さん

もっと速く泳げるようになりたい！

6歳のとき近所のスイミングスクールに通い始めました。水の中でスイスイ泳ぐのが楽しくて練習を続けるうちに、小学２年生で育成クラスに選ばれました。毎日２時間ある練習では5000メートル泳ぎます。コーチの指示をよく聞いて、泳ぎ方に気をつけ、もっともっと速く泳げるようになりたいです。去年は全国大会で5位に入賞したので、今年は３位以内に入るのが目標です。憧れの選手はロンドン・オリンピック銅メダリストの寺川綾選手。オリンピックは世界中から１番の選手が集まるところがすごいと思う。東京にオリンピックが来るといいなと思います。

全国中学校水泳競技大会にて

第52回全国中学校水泳競技大会 背泳ぎ200m 第５位
保谷中学校１年
高山 文香さん

写真提供：株式会社PHOTO FREAKS